

幼児体育に関する調査・研究

— 第1報 —

荒 木 夕 子
谷 本 満 江

はじめに

最近、子供の体格は良くなってきたが、それに伴って体力は伸びていないと言われている。しかし、文部省が昭和39年度から毎年実施しているスポーツテストの「体力・運動能力調査報告書」にみる体力総合点は、年々向上する傾向にあり、体力低下の実情はなかなかとらえにくい。

現実にはころただけですぐ骨が折れる子供が多くなった、外に出ても遊び方の知らぬ子供が多い、土ふまずがなくて遠足など長く歩けない子供が多い、かかとを上げて歩く子供が目立ってきた等、いずれを取り上げても、子供達ばかりでなく、社会的な問題としても大切なことばかりである。

幼児期においては、身体および運動能力は日常生活の中で、くり返し行なわれる遊びによって、発達が促進されていると考えられる。又、幼児はある能力が身につくと自発的にそれを使用し、使用することによってさらに能力は高められていくと言われる。

以上のことから集団生活の中で子供達は、体育あそびに関してどのような傾向があるか、更に深めたく調査し、ここに報告する。

1. 調査の対象並びに調査方法

1) 調査の対象、時期

調査対象は、岡山県、広島県の幼稚園36園である。

地域別園の数、園児数については第1表、第2表に示した通りである。

第1表 地域別における園の数

数 地域	園 の 数	
	年 長	年 少
市街地・住宅	20	19
農 業	16	11
全 体	36	30

第2表 地域別における園児数

数 地域	園 児 数		
	年 長	年 少	全 体
市街地・住宅	1,454	1,138	2,592
農 業	1,817	772	2,589
全 体	3,271	1,910	5,181

調査は、昭和54年11月～12月に行なった。

(2) 調査内容・方法

固定施設、遊具、園内でのケガの実態、シーズンスポーツ、運動ぎらいの子供の実態、健康増進、以上のことに関して質問用紙を作成し、記入を依頼した。

2. 調査の結果

地域別固定施設の設定園数、地域別遊具所有園数は、第3表、第4表の通りである。又好んで使用する年長年少別園の数の固定施設と遊具は、第5表、第6表に示した。ケガの実態については、第7表～第10表の通りである。運動ぎらいの有無については第11表、健康増進に関しては、第12表に示した通りである。

第3表 地域別固定施設設定園数

施設 園の数	ジャン グルジ ム	雲 梯	登 り 棒	登 り 綱	自 動 車 タイ ヤ	助 木	回 旋 塔	シ ー ソ ー	つ り 輪	タイ コ 橋	U F O	シャ ト レ ー ナ	総 合 遊 具	ミニ ハ ウ ス	平 均 台	三 角 山	鉄 棒	ビ ッグ シャ ト ウ	ジ ェ ット ジ ム	ト ン ネ ル
住	17	14	16	12	12	5	11	10	14	4	1	1	5	1	1	2	20	1	0	1
農	12	11	14	11	9	1	8	6	10	3	0	0	3	1	2	1	16	0	1	1
全	29	25	30	23	21	6	19	16	24	7	1	1	8	2	3	3	36	1	1	2

※住…市街地・住宅地域 農…農業地域 全…全体

第4表 地域別遊具所有園数

遊具 園の数	マ ッ ト	と び 箱	平 均 台	ト ラン ポ リン	こ ん 棒	巧 技 台	自 転 車	ス テ ィ ック	レ ー シ ン グ カ ー	バ ラ ン ク	砂 場 セ ット	ス ケ ー ト	ジ ャ ン プ 台	ポ ッ ク リ	バ ス ケ ット ボ ール 入	キ ャ タ ビ ラ ー	ハ ン ド カ ー	ジ ャ ン ピ ン グ	積 木	竹 馬	ハ ー ド ル	円 盤	ボ ー ル	な わ (長)	な わ (短)	リ ン グ	フ ァ ニ ー ト ン ネ ル	ス ク ー タ ー
住	20	19	19	16	0	2	4	1	2	1	2	2	1	0	0	1	4	1	6	1	1	1	19	17	16	15	1	0
農	15	15	15	14	2	6	7	0	1	1	0	1	0	1	0	2	1	2	2	0	0	16	13	13	8	0	2	
全	35	34	34	30	2	8	11	1	3	2	2	3	1	1	1	6	2	8	3	1	1	35	30	29	23	1	2	

※住…市街地・住宅地域 農…農業地域 全…全体

第5表 好んで使用する年長・年少別園の数（固定施設）

施設 園の数	ジャン グルジ ム	雲 梯	登 り 棒	登 り 綱	自 動 車 タイ ヤ	助 木	回 旋 塔	シ ー ソ ー	つ り 輪	タイ コ 橋	U F O	シャ ト レ ー ナ	総 合 遊 具	ミニ ハ ウ ス	平 均 台	三 角 山	鉄 棒	ビ ッグ シャ ト ウ	ジ ェ ット ジ ム	ト ン ネ ル	砂 場
年長	10	10	9	2	3	0	9	0	0	2	1	0	7	1	0	0	17	0	1	0	4
年少	7	3	0	0	3	1	6	4	1	0	0	1	1	0	0	8	0	11	0	1	9

第6表 好んで使用する年長・年少別園の数(遊具)

遊具 園の数	マ	と	平	ト	こ	巧	自	ス	レ	バ	砂	ス	ジ	ポ	バ	キ	ハ	積	竹	ハ	円	ボ	な	な	リ	フ	ス	
	ッ	び	均	ラン	ン	技	転	テ	ー	ン	場	ケ	ヤ	ッ	ス	タ	ン	木	馬	ド	盤	ー	わ	わ	シ	ア	ク	
年長	10	19	2	19	0	2	4	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	3	1	0	0	23	2	8	1	1	0
年少	11	6	7	14	0	0	3	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	3	1	0	0	19	1	7	2	0	0	

第7表 施設・設備・用具使用時のケガの園の数(室内)

園の数	使用	ブ	と	平	ト	巧	ス	ホ	カ	は	の	針	電	机	走	物	友	ジ
	内容	ロ	び	均	ラン	技	ポ	ッ	メ	さ	こ	金	話	の	つ	に	達	ヤ
年長	4	2	2	1	1	0	3	5	4	1	1	0	2	2	5	2	0	
年少	4	0	0	1	1	1	3	0	1	0	0	1	2	4	1	2	1	
全体	8	2	2	2	2	1	6	5	5	1	1	1	4	6	6	4	1	

第8表 施設・設備・用具使用時のケガの園の数(室外)

園の数	使用	鉄	ブ	回	総	雲	つ	タイ	砂	ジ	す	登	シ	助	土	た	走	友
	内容	棒	ラン	旋	合	梯	り	ヤ	場	ヤ	ン	べ	り	ー	管	い	つ	達
年長	10	8	4	3	4	2	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	13	1
年少	5	4	3	4	2	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	11	1	
全体	15	12	7	7	6	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	24	2	

第9表 ケガの内容の園の数(室内)

園の数	内容	切	す	打	鼻	さ	こ	骨
		り	り	ち	血	し	ぶ	折
年長	14	13	13	3	1	1	1	
年少	7	12	11	2	1	0	1	
全体	21	25	24	5	2	1	2	

第10表 ケガの内容の園の数(室外)

園の数	内容	す	打	切	裂	鼻	ね	虫	骨	脱	目	指
		り	ち	り	傷	血	ん	さ	折	臼	の	を
年長	11	17	8	3	3	3	2	2	2	1	1	1
年少	18	11	5	2	4	1	2	1	1	1	1	0
全体	29	28	13	5	7	4	4	3	2	2	2	1

第11表 運動ぎらいの
子の有無

回答数	園の数	%
いる	21	58.3
いない	11	30.6
回答無	4	11.1
計	36	100

第12表 健康増進内容の園の数

内容	体操	マラソン	なわとび	散歩	薄着	乾布まさつ	はだか	はだし	サレキニツトグ	サツカー	フォークダンス	徒歩通園	とび箱	水遊び
住	17	18	12	3	10	6	4	3	5	0	1	0	1	1
農	13	14	9	2	7	2	1	3	3	1	1	1	0	0
全	30	32	21	5	17	8	5	6	8	1	2	1	1	1

※住…市街地・住宅地域 農…農業地域 全…全体

3. 結果と考察

(1) 固定施設と遊具の割合と傾向

市街地、住宅地域と農業地域の地域別の固定施設と遊具の設定順位・割合は第13表、第14表の通りである。

第13表 地域別固定施設設定園数の割合

%	ジャンクルジム	雲梯	登り棒	登り綱	自動車タイヤ	助木	回旋塔	シーソー	つり輪	タイコ橋	UFO	シャトレーナ	総合遊具	ミニハウス	平均台	三角山	鉄棒	ビッグシャトウ	ジェットジム	トンネル
住	85.0	70.0	80.0	60.0	60.0	25.0	55.0	50.0	70.0	20.0	5.0	5.0	25.0	5.0	5.0	10.0	100	5.0	0	5.0
農	75.0	68.8	87.5	68.8	56.3	6.3	50	37.5	62.5	18.8	0	0	18.8	6.3	12.5	6.3	100	0	6.3	6.3
全	80.6	69.4	83.3	63.9	58.3	16.7	52.8	44.4	66.7	19.4	2.8	2.8	22.2	5.6	8.3	8.3	100	2.8	2.8	5.6

※住…市街地・住宅地域 農…農業地域 全…全体

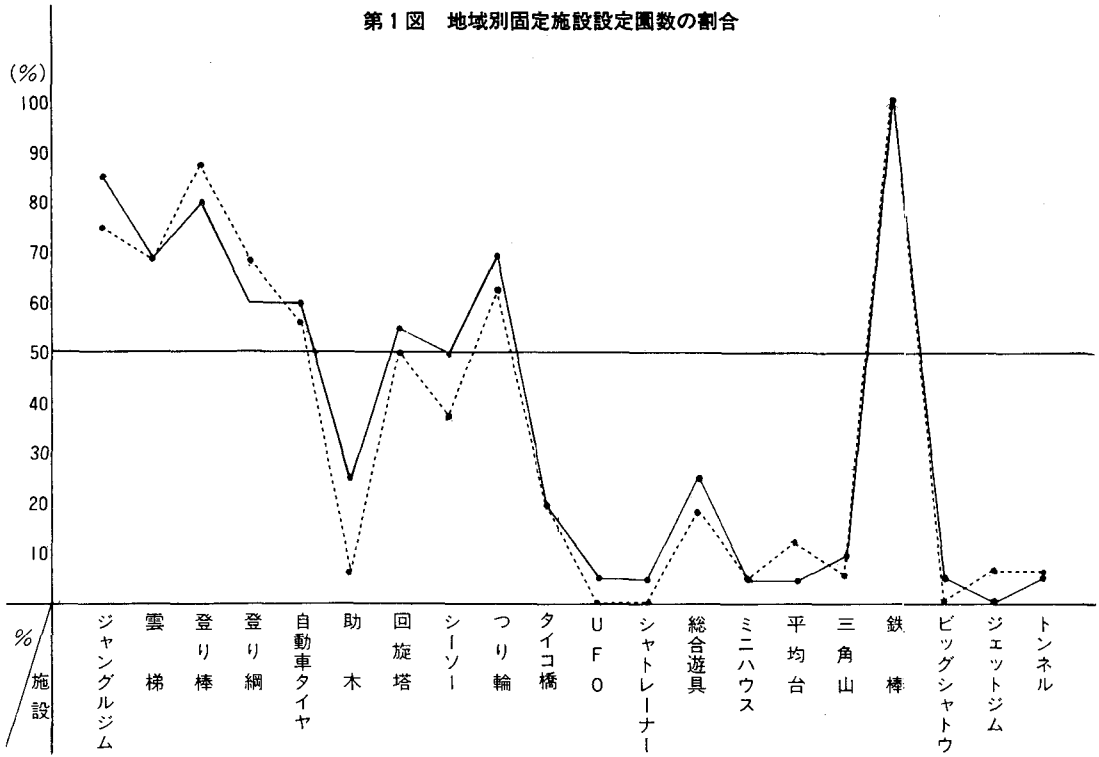
第14表 地域別遊具所有園数の割合

%	マット	とび箱	平均台	トランポリン	こん棒	巧技台	自転車	ステイック	レーシングカー	パラソク	砂場セット	スケート	ジャンプ台	ポックリ	バスケットボール入	キャタピラー	ハンドピラー	ジャンピング	積木	竹馬	ハーンド	内盤	ポール	なわ(長)	なわ(短)	リグ	フアン	スクーター
住	100	95.0	95.0	80.0	0	10.0	20.0	5.0	10.0	5.0	10.0	10.0	5.0	0	0	5.0	20.0	5.0	30.0	5.0	5.0	5.0	95.0	85.0	80.0	75.0	5	0
農	93.8	93.8	93.8	87.5	12.5	37.5	43.8	0	6.3	6.3	0	6.3	0	6.3	6.3	0	12.5	6.3	12.5	12.5	0	0	100	81.3	81.3	50	0	12.5
全	97.2	94.4	94.4	83.3	5.6	22.2	30.6	2.8	8.3	5.6	5.6	8.3	2.8	2.8	2.8	2.8	16.7	5.6	22.2	8.3	2.8	2.8	97.2	83.3	80.6	63.9	2.8	5.6

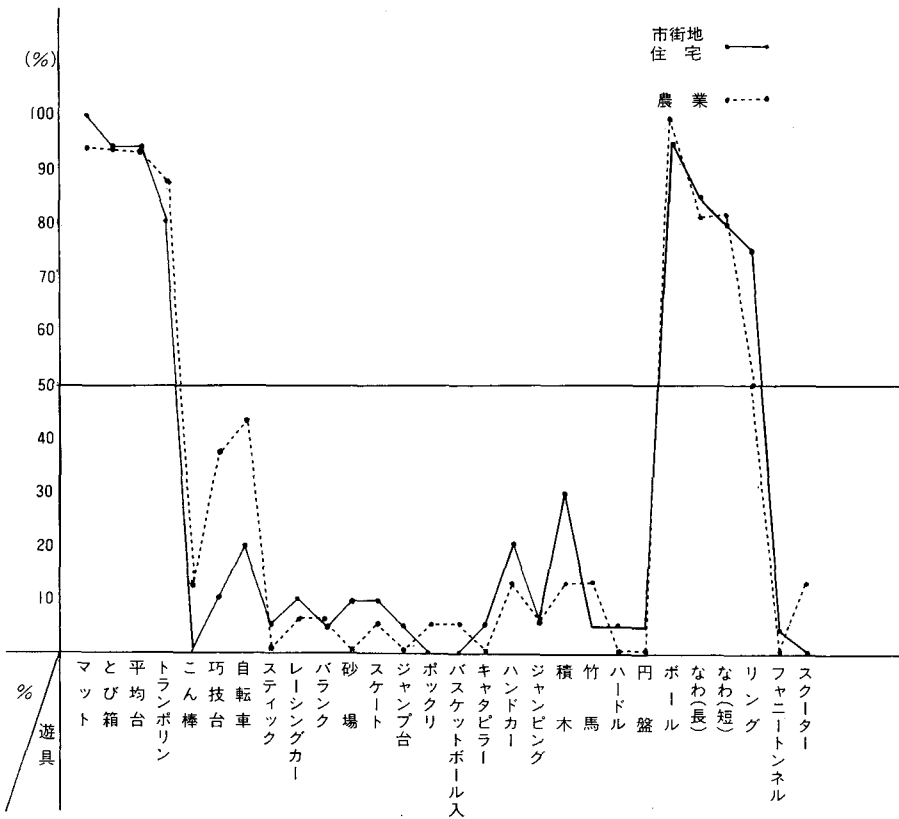
※住…市街地・住宅地域 農…農業地域 全…全体

地域別の固定施設と遊具の設定の実際を明らかにするためグラフでそれぞれ図示すれば第1図、第2図の通りである。

第1図 地域別固定施設設定園数の割合



第2図 地域別遊具所有園数の割合



固定施設に関しては、設置基準で砂場、ブランコ、すべり台は義務づけられている。第13表で全体の上位6つを検討してみると、各園で全体に設置しているのは、鉄棒であり、鉄棒よりも20%減で登り棒、そしてジャングルジムが続く。次に雲梯、つり輪、登り綱の順である。ブランコ、すべり台は設置基準以外に変わった形をそなえつけているのが目立った。

第14表の遊具に関しては、ボールとマットは共に97%、とび箱、平均台が共に94%、トランポリンの83%と、沢山の遊具の中でいわゆる器械運動の遊具が上位をしめている。次になわ(長・短)、そしてリングが続き、短いなわは、個人持ちの傾向があった。

2) 固定施設、遊具の地域別比較

(イ)固定施設の場合

第1図に示している様に、両地域で鉄棒は100%、続いてジャングルジム、登り棒、雲梯、登り綱、つり輪と両地域共同じ様な設置率であった。

(ロ)遊具の場合

第2図の様に、市街地、住宅地域では、マットが100%、農業地域ではボールが100%と全部の園にある。とび箱、平均台が約95%と両地域共それぞれ高い率である。トランポリンは、農業地域の方がやや上まわり、リングは市街地、住宅地域の方が上まわっている傾向にある。そしてなわがだいたい同じ割の様である。その他遊具については、市街地、住宅地域の方が種類が多様であり、その上大変なバラツキがあることがわかった。

3) 固定施設と遊具の年長、年少の使用実態

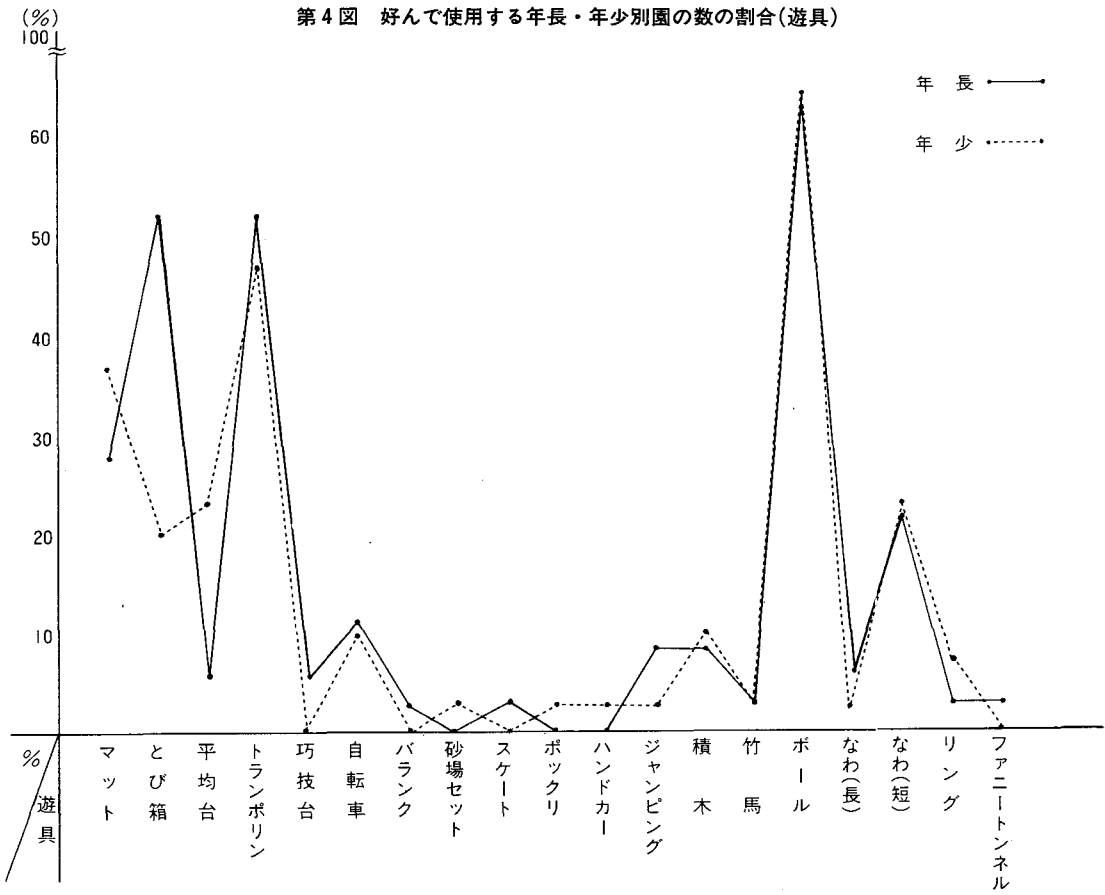
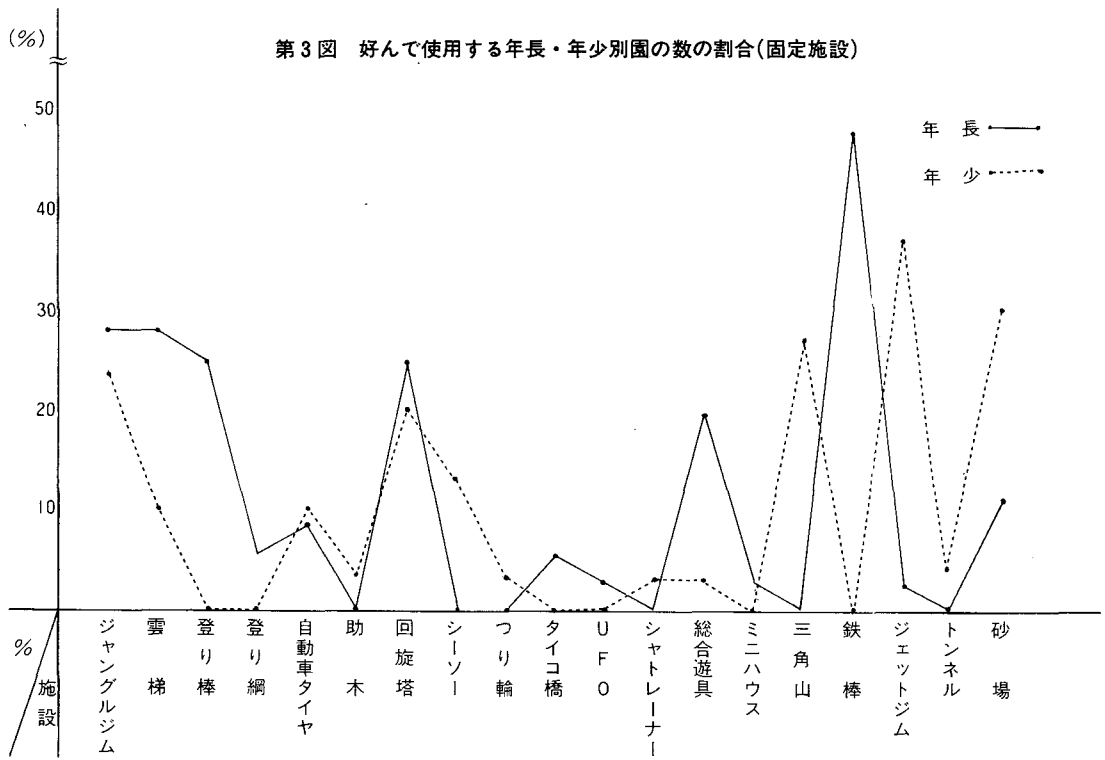
第15表と第3図で明らかな様に、年長児は鉄棒がトップでジャングルジム、雲梯、登り棒、回旋塔、ブランコと続いている。年少児においては、すべり台、ブランコ、砂場、鉄棒、ジャングルジムとなっている。やはり年長児は、全体的に複雑な、変化のあるものを好み、年少児においては、年長児とは逆にシンプルであまり動的でないものに集中している。そして、両者に共通している鉄棒、ジャングルジム、ブランコ等は、やはり年長児は工夫をしながら、リズムカルなあそびや、強い力を出すあそびをしている傾向がみられた。

第15表 好んで使用する年長・年少別園の数の割合(固定施設)

施設 %	ジャ ン グ ル ジ ム	雲 梯	登 り 棒	登 り 綱	自 動 車 タ イ ヤ	助 木	回 旋 塔	シ ー ソ ン	つ り 橋	タ イ コ 橋	U F O	シャ ト レ ー ナ	総 合 遊 具	ミ ニ ハ ウ ス	三 角 山	鉄 棒	ジ ェ ッ ト ジ ム	ト ン ネ ル	砂 場
年 長	27.8	27.8	25	5.6	8.3	0	25	0	0	5.6	2.8	0	19.4	2.8	0	47.2	2.8	0	11
年 少	23.3	10	0	0	10	3.3	20	13.3	3.3	0	0	3.3	3.3	0	26.7	0	36.7	3.3	30

第16表 好んで使用する年長・年少別園の数の割合(遊具)

遊 具 %	マ ッ ト	と び 箱	平 均 台	ト ラン ポ リ ン	巧 技 台	自 転 車	バ ラ ン ク	砂 場 セ ット	ス ケ ー ト	ポ ッ ク リ	ハ ン ド カ ー	ジ ャ ン ピ ン グ	横 木	竹 馬	ポ ー ル	な わ (長)	な わ (短)	リ ン グ	フ ァ ニ ー ト ン ネ ル
年 長	27.8	52.8	5.6	52.8	5.6	11.1	2.8	0	2.8	0	0	8.3	8.3	2.8	63.9	5.6	22.2	2.8	2.8
年 少	36.7	20	23.3	46.7	0	10	0	3.3	0	3.3	3.3	3.3	10	3.3	63.3	3.3	23.3	6.7	0



遊具に関しては第16表、第4図で見ると年長児はボールが断然トップで、とび箱、トランポリン、マット、なわとび、自転車の順序である。年少児のトップは年長児と同じ様にボールで、トランポリン、マット、平均台、とび箱、自転車の順である。ここで両者共通なのは、器械体操種目が上位をしめていることと、ボールはやはり両者共好んで使用している実態をつかんだ。現在の短大生を見ると、器械体操種目をあまり好まぬが、少なくとも幼児期が原因ではなさそうである。ボールあそびについても、一般的に年令にこだわらず、男女の区別なく、どんな人でも出来るあそびだが、特に子供にはボールの特性、とび、はずみ、ころがるを生かしながら高度な技術や手先で技巧的に扱うのではなく、その年令にあったあそびの中から、観察力、器用さ、注意力、心の緊張をほぐすことなどが、これからも特に必要になってくるであろう。

4) 固定施設・遊具と運動因子との関係

運動能力は、行動体力の1つであり、運動に対する適応能力と見ることができ、運動を構成している要因については今までもかなり多くの研究者が検討を試みているが、キュアトンは、運動の要素を6つの因子、すなわち、平衡性・敏捷性・柔軟性・筋力・瞬発力・持久力を示している。しかし今回は、幼児を対象としているので巧緻性を是非加えて考える必要がある。

(イ) 固定施設の場合

上記の様に6因子の運動適性因子（基礎運動能力）と(3)で比較的使用率の高い固定施設との関係は第17表の通りである。

第17表 施設と運動因子との関係

施設 \ 運動因子	巧緻性	平衡性	敏捷性	柔軟性	筋力	瞬発力	持久力
すべり台		○			○		
ジャングルジム		○		○	○		
ブランコ		○			○		
太鼓橋		○		○	○		
雲梯	○				◎		○
鉄棒	◎	○		○	○		
シーソー					○		
回旋塔	○	○			○		○
登り棒(綱)					◎		◎

◎は関係が強い

第17表で示す様に、全体的に見て全ての固定施設に関係する因子は筋力である。次に平衡性で、巧緻性、柔軟性、持久力、敏捷性は直接関係するのは少ない様だ。

次に(3)の好んで使用する内容と運動因子について見てみると、全体的に運動因子3つ以上の要素に影響している施設使用が多く、中でも、筋力、持久力を使うものに集中していることがわかった。又、年長児について、好んで使用する上位5つの固定施設にみな平衡性の因子が入っていることは注目すべき点である。

(ロ) 遊具の場合

(3)で比較的使用率の高い遊具と運動因子との関係は第18表の通りである。

第18表に示す様に、すべての遊具に関係する因子は、巧緻性、筋力である。次に平衡性、敏捷性、柔軟性、瞬発性の順である。使用の方法が問題となるであろうが持久力は、やはりなわとびに出ている。(3)の好んで使用する角度からみると、年長児は、運動因子3つ以上の、やは

第18表 遊具と運動因子との関係

遊具	運動因子	巧 緻 性	平 衡 性	敏 捷 性	柔 軟 性	筋 力	瞬 発 力	持 久 力
ボ ー ル		◎		○		○		
な わ		○	○	○	○	◎	○	◎
マ ッ ト		○	○	○	◎	○		
と び 箱		○			○	○	◎	
平 均 台		○	◎			○		
トランポリン		○	○		○	○	○	

◎は関係が強い

り変化のある複雑な遊具の使用が多い様だ。又年少児においても同じことが言えるが、動く内容と、遊具の使用方法が、年長児とは違っていることが(イ)、(ロ)の関係から理解出来る。

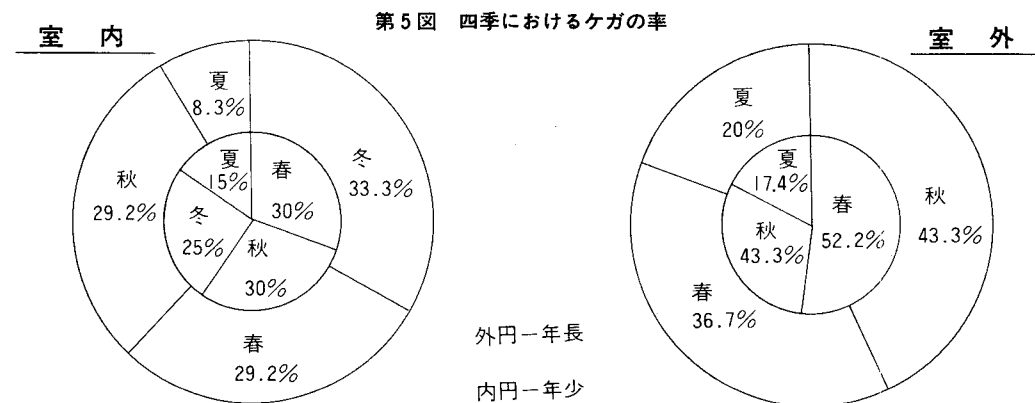
5) ケガの実態

第19表、第5図の示すように、四季に分けてみると年長児は、室内におけるケガは、冬が一番多く、春、秋が同じ位、一番少ないのが夏である。又、年少児の室内におけるケガは、春、秋が同じ発生率で多く、冬がやや少なめでやはり夏が一番少ない様だ。

又、室外をみてみると、年長児においては秋が一番多く、春、続いて夏となっている。又、年少児においては、春のケガが50%以上で、次に秋、夏となっている。年長児、年少児共、冬はゼロである。発生時期を全体的にみると、年長児については、行動的になり、室外であそぶ機会の多い秋がケガの多い時と比例している様だ。室内での冬の33%も同じことが言える。年少児については、やはり、初めての園の生活、まだ慣れる環境、集団生活等、色々なことが影響して、室内、外共に春がトップで、秋も同じ様に30%となっている。

第19表 四季におけるケガの率

季節	場所 組	室 内		室 外	
		年 長	年 少	年 長	年 少
春		29.2	30.0	36.7	52.2
夏		8.3	15.0	20.0	17.4
秋		29.2	30.0	43.3	30.4
冬		33.3	25.0	0	0



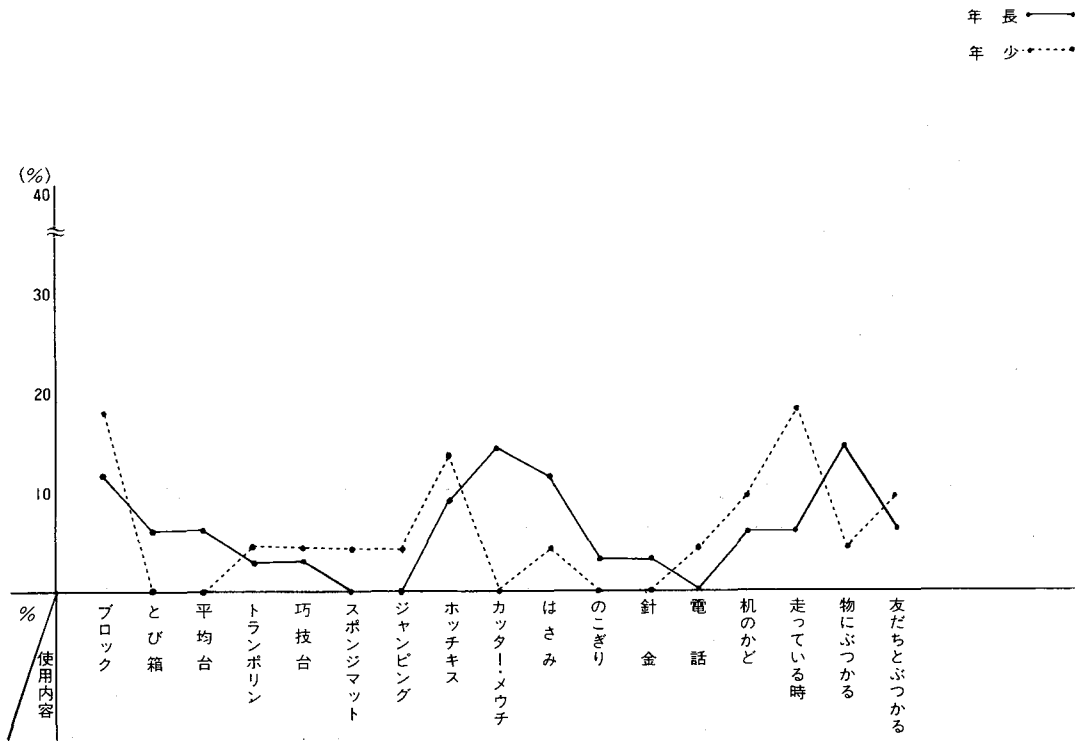
又、ケガの発生時の施設、設備、用具使用内容については第20表、第6図で示す通り、室内においては、ブロックあそびしている時が上位で、ホッチキス使用時、走っている時、物にぶつかるが続き、ハサミ、カッター・メウチ使用時の順である。年長児は、カッター・メウチ使用時、物にぶつかるが多く、年少児はブロック使用時、走っている時が多い。

室外においては第21表、第7図で示す通り、走っている時が一番多く、次に鉄棒、ブランコ、回旋塔、総合遊具、雲梯と続いている。年長児、年少児の角度から見ても、両者共同じ割合で出ている。

第20表 施設設備用具使用時のケガの割合(室内)

使用内容 %	ブ ロ ッ ク	と び 箱	平 均 台	ト ラン ポ リ ン	巧 技 台	ス ポ ン ジ マ ツ ト	ジ ャ ン ビ ン グ	ホ ッ チ キ ス	カ ツ タ ー ・ メ ウ チ	は さ み	の こ ぎ り	針 金	電 話	机 の か ど	走 っ て い る 時	物 に ぶ つ か る	友 だ ち と ぶ つ か る
年 長	11.4	5.7	5.7	2.9	2.9	0	0	8.6	14.3	11.4	2.9	2.9	0	5.7	5.7	14.3	5.7
年 少	18.2	0	0	4.5	4.5	4.5	4.5	13.6	0	4.5	0	0	4.5	9.1	18.2	4.5	9.1
全 体	14.0	3.5	3.5	3.5	3.5	1.8	1.8	10.5	8.8	8.8	1.8	1.8	1.8	7.0	10.5	10.5	7.0

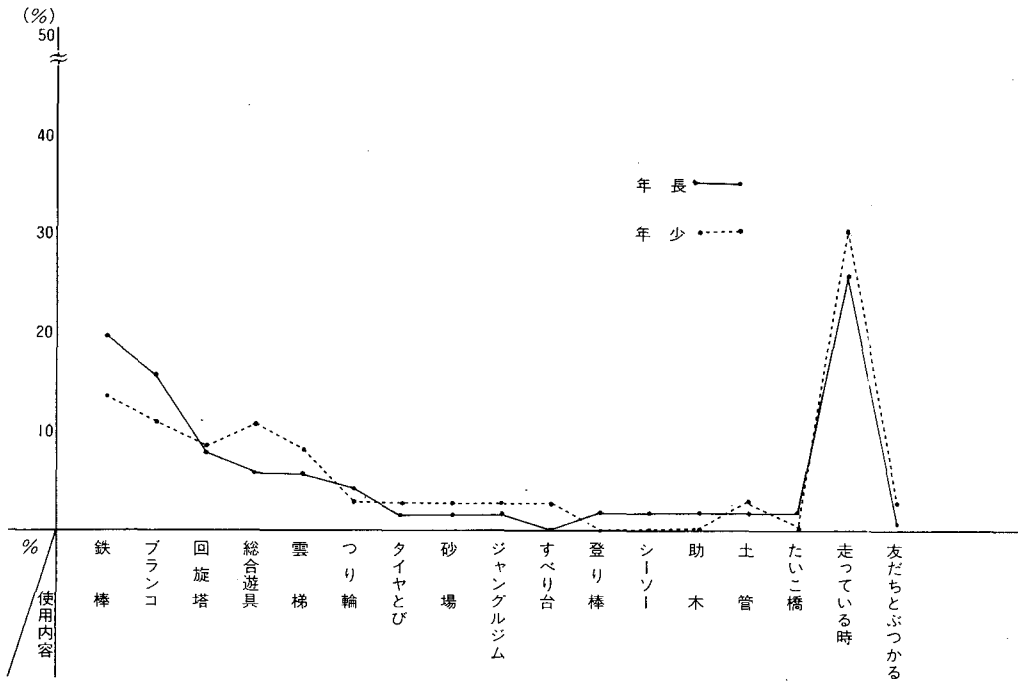
第6図 施設設備用具使用時のケガの割合(室内)



第21表 施設設備用具使用時のケガの割合(室外)

使用内容 %	鉄棒	ブランコ	回旋塔	総合遊具	雲梯	つり輪	タイヤとび	砂場	ジャングルジム	すべり台	登り棒	シーソー	助木	土管	たいこ橋	走っている時	友達とぶつかる
年長	19.6	15.7	7.8	5.9	5.9	3.9	1.7	1.7	1.7	0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	25.5	2.0
年少	13.5	10.8	8.1	10.8	8.1	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	0	0	0	2.7	0	29.7	2.7
全体	17.0	13.6	8.0	8.0	6.8	3.4	2.3	2.3	2.3	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	27.3	2.3

第7図 施設設備使用時のケガの割合(室外)



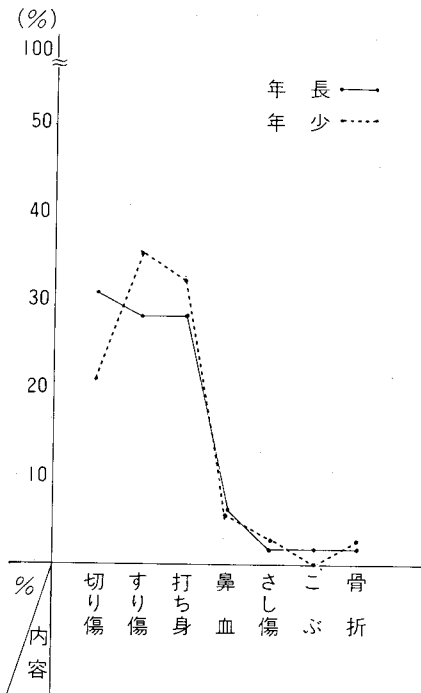
第22表 ケガの内容の割合(室内)

内容 %	切り傷	すり傷	打ち身	鼻血	さし傷	こぶ	骨折
年長	30.4	28.3	28.3	6.5	2.2	2.2	2.2
年少	20.6	35.3	32.4	5.8	2.9	0	2.9
全体	26.2	31.2	30.0	6.2	2.5	1.2	2.5

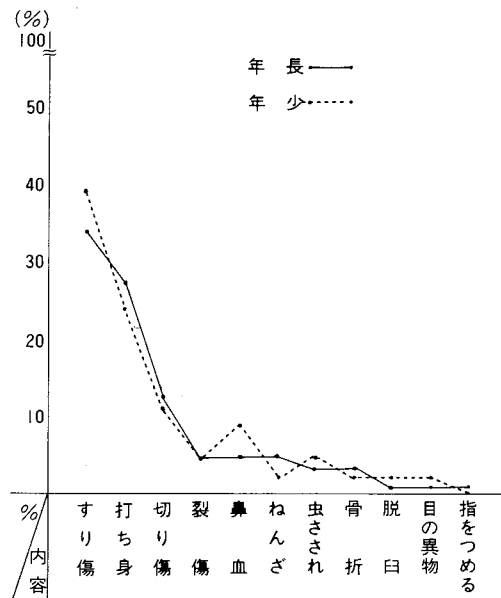
第23表 ケガの内容の割合(室外)

内容 %	すり傷	打ち身	切り傷	裂傷	鼻血	ねんざ	虫さされ	骨折	脱臼	目の異物	指をつめる
年長	33.9	27.4	12.9	4.8	4.8	4.8	3.2	3.2	1.6	1.6	1.6
年少	39.1	23.9	10.9	4.3	8.7	2.1	4.3	2.1	2.1	2.1	0
全体	33.0	23.7	19.4	4.2	5.9	3.4	3.4	2.5	1.7	1.7	0.8

第8図 ケガの内容の割合(室内)



第9図 ケガの内容の割合(室外)

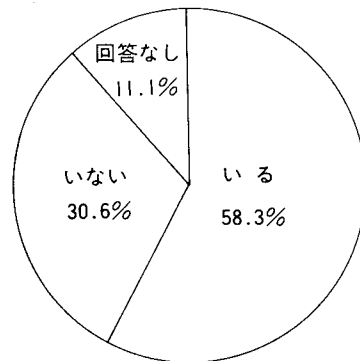


第22表, 第23表, 第8図, 第9図で示す様に, 室内においては, 年長児, 年少児共, 切り傷, すり傷, 打ち身のケガが発生内容の87%となっている。室外においても上記3つのケガが75%をしめており, 室外のケガの内容が多様である。

6) 運動ぎらいの子供の実態

第11表, 第24表, 第10図に示す様に, 21園が何らかの形で, なかなかグループの中に入って動かぬ子供がいる様だ。今調査対象36園中半分強の58.3%である。そして1園に15人前後の運動ぎらいの子供がいる所が年長児1園, 年少児2園あり, 今後色々な角度で調査研究すべき点である。

第10図 運動ぎらいの子供の有無率



第24表 運動ぎらい分布園数と人数

園の数	人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	園の合計	人数の合計
年長	0	2	4	2	1	3	1	1	0	4	0	1	0	0	1	20	129	
年少	1	0	2	3	1	3	0	0	0	3	0	0	0	0	2	15	102	

7) 健康増進のために

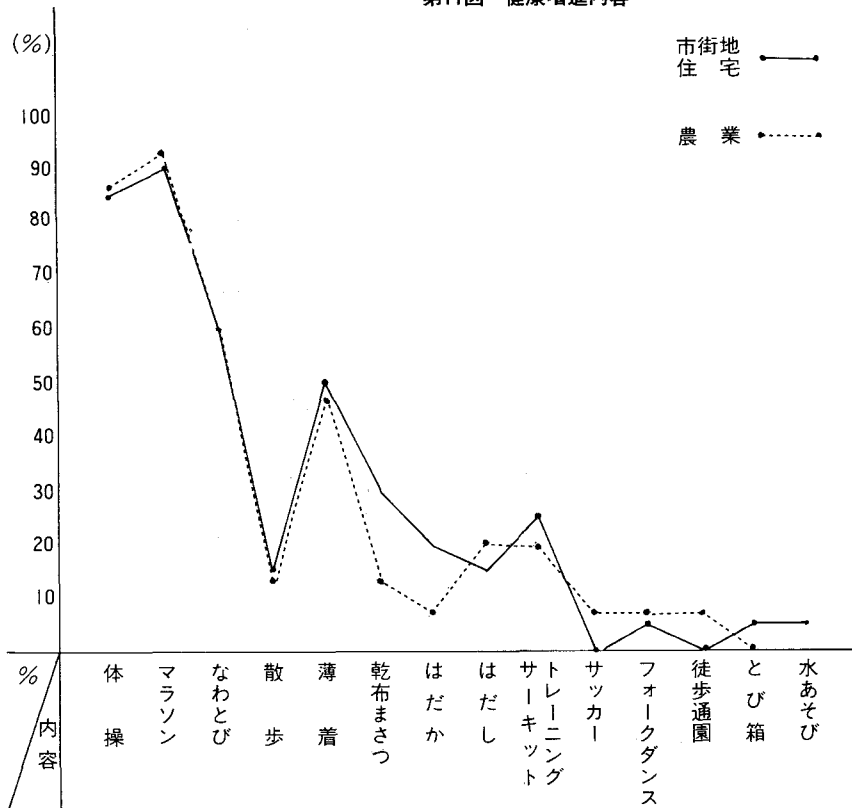
第12表で示した様に、36園中28園が何らかの形で体づくりをしている。第25表、第11図を見てもわかる様に、その中で時節がらかマラソンが一番多く、体操、なわとび等一般的に行なっている。薄着、乾布まさつも上位をしめている。

第25表 健康増進内容の割合

内容 %	体 操	マ ラ ソ ン	な わ と び	散 歩	薄 着	乾 布 ま さ つ	は だ か	は だ し	サ ト レ ー キ ツ ン グ	サ ツ カ ー	フ ォ ー ク タ ン ス	徒 歩 通 園	と び 箱	水 あ そ び
住	85.0	90.0	60.0	15.0	50.0	30.0	20.0	15.0	25.0	0	5.0	0	5.0	5.0
農	86.7	93.3	60.0	13.3	46.7	13.3	6.7	20.0	20.0	6.7	6.7	6.7	0	0
全	85.7	91.4	60	14.3	48.6	22.9	14.3	17.1	22.9	2.9	5.7	2.9	2.9	2.9

※住…市街地・住宅地域 農…農業地域 全…全体

第11図 健康増進内容



ま と め

昭和54年11月～12月に行なった、岡山県・広島県の幼稚園36園について調査した結果を、地域別・年齢別に比較、検討して、次のとおりの結果を得た。

1) 固定施設に関して

設置基準の他、鉄棒は全ての園でそなえていた。登り棒、ジャングルジムは約80%で、雲梯は約70%、登り綱、つり輪は65%、自動車タイヤ、回旋塔は55%の設置率で、その他、多種ばらつきがあった。地域差もあまりみとめられなかった。又使用度については、年長児は、鉄棒、ジャングルジム、雲梯など、筋力、持久力を必要とする複雑なものを好み、年少児については、あまり動的でないすべり台、ブランコ、砂場等を好んで使用している。

2) 遊具に関して

マット、ボールは約100%、とび箱、平均台が95%、トランポリン、なわ(長・短)約83%、リング63%と大半の園でそなえつけており、その他は、大変な種類にわたり、色々な名称で、園独自のものが多かった。地域別にみてもあまり差は認められないが、市街地の方が、遊具の種類が多かった。又年長児、年少児共にボールを最も好んで使用し、トランポリン、マット、なわも両者共通に好んで使用しているが、年長児はとび箱、年少児は平均台の使用率がそれぞれ高かった。

3) ケガについて

①室内に於ては

年長児はケガの発生率は冬が高く、年少児は、春、秋が同率で高かった。夏は年長児、年少児共に低い。

年長児は、カッター・メウチを使用しているとき、物にぶつかる時のケガが一番多く、次に、ブロック、ハサミ、ホッチキスを使用している時が多い。これに対して年少児は、ブロックあそび、走っている時の発生が一番多く、ホッチキス、机のかど、友だちどうしぶつかる時が多い。ケガの内容については、年長児、年少児共に、すり傷、うち身、切り傷が圧倒的に多かった。

②室外に於ては

年長児は秋、年少児は春にケガの発生率が一番高く、冬は、両者共なかった。又、年長児、年少児共に走っている時のケガが断然多く、ブランコ、鉄棒使用時のケガが続く。室外に於ても両者共、すり傷、うち身、切り傷のケガが多かった。

4) 運動ざらいについて

今回の調査で約60%の園で運動に積極的でない子供が何人かづついることがわかった。今後色々な角度で研究すべきである。

5) 健康増進について

何らかの形で、28園が行なっていた。内容は、マラソン、体操が多く次に、なわとび、うす着の習慣となっていた。

以上のことから考察してみると、固定施設遊具に関して地域別では、ほとんど差はないが、子供のおかれた環境で、使用内容も変わってくるのがわかった。又ケガでは、年少児は特に環境や集団生活になれぬ、春が室内外共に多いことはうなづけた。運動ざらいについては、質問内容作成の反省をふくめ、今後充分研究・検討を要する点である。今回は男女の区別せず全調査をした。男の子、女の子では、基礎運動能力の発達に差があるので今後は男女別で研究すべきことを反省した。

今回の調査に好意的に御協力下さった、各幼稚園に心から謝意を表します。

参 考 文 献

- (1) 正木健雄：からだづくりと保育
- (2) 石河利寛他：子どもの発達と体育指導
- (3) 松井三雄他：体育測定法
- (4) 勝部篤美：幼児体育の理論と実際
- (5) 大石三四郎：体育統計学
- (6) 文部省体育局：昭和52年度体力運動能力調査報告書
- (7) 船川・江口：子ども健康管理とからだづくり
- (8) A.S. プルンフーバー：ボールを使った運動と遊び
- (9) 豊田・黒田：体育あそびの理論と実際
- (10) 幼少年教育研究所論：「健康」幼児教育の理論と実践